

熊本県立菊池支援学校 令和2年度(2020年度)学校評価表

1 学校教育目標
一人一人の障がいの状態や特性、教育的ニーズなどエビデンスに基づいた教育活動を実践し、未来に向かって自立し、社会参加できる、生きる力を持った児童生徒を育成する。

2 本年度の重点目標
<p>取組テーマ</p> <p>「地域の関係機関との「協働」による地域に根ざした学校づくり～「障がいのある人が活躍し、生き生きと生活し、認め合える社会」の実現を目指して～」</p> <p>(1)人権教育に関する研修を一層深め、同和問題に関する基本的認識を深めるとともに、児童生徒理解に努め、いじめのない学校づくりを行う。</p> <p>(2)危機管理、学校保健及び学校安全の一層の充実を図り、心身ともに健康で安全に学校生活を送ることができる学校づくりを推進する。</p> <p>(3)教職員の働き方改革を推進し、児童生徒と向き合う時間の確保と授業の充実を図る。</p> <p>(4)個別の教育支援計画、個別の指導計画作成に当たっては、適切な合理的配慮の提供も含め、保護者、関係者との積極的な合意形成に努める。</p> <p>(5)指導・支援と評価の一体化やPDCAサイクルによる授業改善など、教育活動全般の改善・充実を生み出すカリキュラム・マネジメントの実現に努める。</p> <p>(6)共生社会の実現をめざすインクルーシブ教育システムの観点から、近隣小中学校との交流及び共同学習並びに居住地校交流にも積極的に取り組んでいく。</p> <p>(7)行事等を通して、地域社会との交流を積極的に推進し、児童生徒が生活経験を広げるとともに、地域社会との相互理解を一層深めるように取り組む。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	働き方改革の推進	時間と空間の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> 可能な部分のペーパーレス化を行い、印刷、配付の時間を短縮し、職員一人一人が保有する書類の量を減らし、働きやすい環境を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員室で行う会議等で会議後の使用頻度が少ない資料について、サーバーでデータ管理し、会議中はパソコンで資料を確認するようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 9月から職員会議のペーパーレス化を行った。大幅に配付資料が削減され、印刷・配付、年度末の処分の手間と紙の削減ができた。
		在校時間の上限を意識した計画的な業務遂行	<ul style="list-style-type: none"> 本年度から施行された在校時間の上限を職員に周知し、在校時間を意識した働き方を学校全体で推し進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月の職員会議で職員に在校時間の上限について知らせる。 毎月、タイムカード打刻等による勤務時間等を各自で確認するとともに、計画的な業務を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎月のタイムカード打刻による時間外勤務の平均は上限を超えなかった。 時間外勤務の上限を超えた職員もいたため、今後は計画的な業務遂行及び業務の平準化に取り組む。
授業の充実	一人一人の教育的ニーズに応える教育課程の創造	カリキュラム・マネジメントの推進	<ul style="list-style-type: none"> 評価を充実させ、授業改善及びカリキュラム・マネジメントの充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画の活用や題材計画、評価(授業、個人)等の全教科での活用を進める。 月1回、授業評価の時間を設け、評価を行う時間を確保する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各種シートの活用により、授業内容や指導方法に効果が見られている。各シートの関連を更に明確にし、活用を促していきたい。 毎月1回、授業評価を実施し、個人又はグループでの評価を行うことができた。
		自立活動の個別の指導計画を活用した授業実践	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の個別の指導計画を活用し、個々の児童生徒に応じた自立活動の指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の指導目標及び具体的な指導内容の設定についての研修を行い、自立活動の個別の指導計画の活用方法について共有する。 各学部で自立活動の指導の授業参観を行ったり、情報交換会をしたりすることで、専門性の向上につなげる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 月に2回、研修の機会を設定し、計画的に取り組むことができた。各学部で話し合いながらツールの使い方について共有し、自立活動の個別の指導計画に基づいた授業実践を行うことができた。 各学部で複数回、実践についての情報交換会を行い、授業の改善に生かすことができた。
キャリア教育(進路指導)	進路情報提供の充実	生徒や保護者のニーズに応じた進路情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> 生徒や保護者のニーズに応じて、地域の企業や事業所の新規開拓を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報提供や実習、進路決定等につなげられるよう、生徒や保護者のニーズに合う地域の一般企業や事業所を訪問して、新規開拓を行う。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響のため、新規開拓としての事業所等への訪問はあまりできなかったが、電話での問い合わせ等により、生徒や保護者への情報提供を行うようにした。次年度も事業所等とこまめに連絡を取り合いながら、進路決定に向けた情報提供が行えるようにする。
生徒(生活)指導	児童生徒の安全な生活とより効果的な生徒(生活)指導	学校、家庭、関係機関、地域との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 年3回、地区学校・警察との連絡協議会に参加し、児童生徒を取り巻く課題についての情報共有を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や学校生活の中で、安全で健全な生活を送るための指導を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 地区学校・警察との連絡協議会に参加し、生徒(生活)指導についての情報交換を行うことができた。得た情報を学校で共有したり、児童生徒への指導に生かしたりすることができた。 児童生徒を取り巻く状況は、課題が多くあるため、次年度も情報を取り入れながら指導支援を行っていく。

人権教育の推進	日々のあらゆる教育活動における人権尊重の観点からの具体的実践	日々の教育活動の実践と振り返りによる人権尊重意識の向上	・幅広い人権意識をもった授業研究や人権週間（12月）に取り組む。	・地区の人権教育推進協議会、公開授業研究会等に参加し、地区の人権教育の推進状況等について知見を広めた上で、各学部の人権目標に沿った取組を実施する。	B	・各学部の計画に基づき、校内での授業研究に取り組んだ。校外での研修は新型コロナウイルス感染症の影響で中止が多かった。
	命を大切にす る心を育む指 導の充実	自尊感情・自己実現・共生の視点を踏まえた子どもの心に深く響く教育活動の実践	・「命を大切にす る取組」を各学 部で実施する。	・人権週間中に、各学部で「命に関する授業」を行う。 ・学級通信等で保護者に授業の様子を伝える。	B	・各学部で計画的に「命に関する授業」を実施し、各クラスで学級通信による保護者への人権啓発の発信ができた。それらを客観的に評価できるデータ、アンケート等を次年度は作成する。
いじめの防止等	いじめ防止のための取組と重大事態の予防	いじめ防止等の対策のための組織的な取組	・外部専門家等を入れた「いじめ防止等対策委員会」を年3回実施し、いじめ防止等の対策に組織で取り組む。	・各学部でいじめが疑われる情報を収集し、いじめ防止等対策委員会で報告を行い、いじめを認知したり、事案について指導支援、対応方針を確認したりしていじめの解消に取り組む。 ・重大事態に移行する恐れのある事案については、速やかに委員会を開催して対策等を行う。	B	・学期に1度、いじめ防止等対策委員会を開催し、外部専門家から指導助言を受け、いじめの解消に向けて取り組むことができた。次年度は、各担任がいじめに係る情報をよりの確に情報集約担当者に報告できるよう、「いじめ聴き取りシート」を改良していく。
地域支援	特別支援教育のセンター的機能の充実	巡回相談の充実	・巡回相談を地域に周知し、ニーズに応じた巡回相談を実施する。	・リーフレットの作成、地域への配布等積極的に発信する。相談には、すぐに実践できる具体的な支援方法等を提案する。	B	・リーフレットの作成、配付等を行い、積極的に発信した。相談依頼件数は昨年度の2倍を超え、ケースに応じて迅速に対応することができた。しかし、依頼のない学校もあり、次年度も引き続き取組を充実させる。
健康で安全な学校生活	安全安心な学校給食の実施	栄養教諭や共同給食を実施している支援学校との連携	・各学部の給食指導の課題点や疑問点を聞き取り、現状を正しく把握する。	・月1回の給食担当者会議へ参加し、情報の共有や課題点の改善を行う。 ・全職員へ周知するべき内容については、共通理解する場面を設ける。	B	・月1回の給食担当者会議では、情報の共有をすることができた。 ・特に新型コロナウイルスに関しての対策について学部朝会等で周知することができた。
	コミュニティ防災	地域の関係機関等との連携	・隣接校や地域の消防署等との連携を図り、コミュニティの一員としての意識を高める。	・隣接の支援学校と合同避難訓練を実施する。 ・菊池広域連合西消防署に指導を依頼する。	C	・隣接校との合同避難訓練実施に向けて準備を進めていたが、実施できなかった。 ・次年度も合同で実施することが確認できているので、実施の際には地域の消防署に指導を依頼する。
教育環境の整備	学校環境美化	環境に関する授業の実践	・「環境について」各学部1回以上の授業を行う。	・学校版環境ISO実施計画書を作成し、具体的宣言項目（節水節電への取組、緑を増やす取組、ゴミの分別活動）に沿って実施する。 ・ゴミの分別は、合志市の分別収集の方法を参考にマニュアルを作成し取り組む。	A	・環境ISO実施計画の宣言項目に基づき、児童生徒の実態に合わせ、全ての学部、学級で環境に関する授業を1回以上行うことができた。 ・作成したマニュアルを基に、学校全体でゴミの分別収集に取り組むことができた。
	情報発信・地域啓発	ホームページの充実	・各学部の取組について定期更新をしながら情報発信する。	・月1、2回のペースで各学部ホームページ担当が、行事や活動終了後等に更新を行う。	B	・学習活動や学校行事の様子など、ホームページにて定期的に情報を発信することができた。各学部の更新頻度にばらつきがあるため、次年度も各学部継続的に更新していく。
地域連携（コミュニティ・スクール）	学校運営協議会の実施	取組テーマに基づいた学校運営	・取組テーマ「地域の関係機関との協働による地域に根ざした学校づくり」に基づいた各学部、各分掌部の取組を実施し、地域に根ざした学校づくりを行う。	・9月の協議会で学校の取組案を提示し、2月の協議会でテーマに基づいた本年度の本校の取組を検証する。	B	・9月、2月の協議会ともに書面開催となったが、本年度の取組に関する検証ができた。 ・次年度の取組に向けて、意見聴取ができたので、実現するよう準備を行っていく。